

ぱすてる

第15号 2014.1

認めあおう、
それぞれの
生き方



蓮田市
マスコットキャラクター
「はすびい」

ご意見をお寄せ
ください



「ぱすてる」では、今後載せてもらいたい内容、今回の内容に対するご意見・ご感想、男女共同参画全般に関するご意見などをお待ちしています。また、編集委員も募集しています。興味関心をお持ちの方、ぜひ参加してください。

蓮田市男女共生情報誌

編集委員／石井文枝、澤田喜子、田中秀行、菅野由紀子、石塚優香

発行／蓮田市役所総務部庶務課 〒349-0193 蓮田市大字黒浜2799-1

☎048-768-3111 内線296

イクメンの星

Q1

結婚して何年ですか？
お子さんは何人ですか？

11年目。子どもは2人。
(3歳と1歳4か月)



Q3

奥様からご主人をみて、家事を手伝っていると思いますか？

良く、手伝ってくれてると思います。何より、嫌がらず率先して、育児・家事を行ってくれるので助かります。



Q2

どのように育児(家事)を
分担していますか？

食事の仕度は妻。それ以外の力仕事は、私。家事の分担は、自然と、共に助け合うように分担しました。お風呂は、子どもたちの意思を、一番優先します。



Q4

今の生活でストレスを
感じる事がありますか？

ストレスを感じる時はありますが、それを発散するために、仕事帰りに一杯飲む事は、必要性を感じません。家に帰って、家族と食事をしながら飲んだ方が、ストレスの発散になります。

厚生労働省雇用均等・児童家庭局の委託事業として、【イクメンプロジェクト】～育てる男が家族を変える。社会が動く～というプロジェクトがあります。

そこで、市内在住の子育てに奮闘するイクメンにスポットを当て、突撃インタビューを行いました。

Q5

男女の地位について、
どうお考えですか？

どちらかが優遇されているかは、立場によって異なるので、一概に言えないと思います。



菊池さんファミリー

Q6

女性が仕事を持つ事について、
どうお考えですか？

(奥様)子どもができて、できる事なら、仕事をした方が良いと思います。気分転換にもなりますし。



Q7

『夫は外で働き、妻は家庭を守る』
についてどうお考えですか？

(奥様) 昔は、男性は家事をするものではないという考え方でした。女性も男性に、育児(家事)をさせるものではないという考え方だったかもしれませんが、今のイクメン世代の男性は、自分の母親が苦労しているのを見てきて『なるべくできる事は、手伝おう』という風になってきたと思います。また、女性も、できる事は男性にも手伝って欲しいという風になってきたと思います。



イクメンとは...

子育てする男性の略語。単純に育児中の男性というより、むしろ『育児休暇申請する』『育児を趣味とはばからない』など、積極的に子育てを楽しみ、自らも成長する男性を指す。

～知恵蔵2013 より引用～

GAIKOKUJIN at HASUDA

こちらのコーナーでは、3人の外国人女性にスポットをあて、アンケートを参考にしながら話をお聞きました。

アンケート

- Q1: 日本に来て一番驚いたことは？
- Q2: 男女の地位についてどう思いますか？
- Q3: 女性が職業を持つことについては？
- Q4: 「夫は仕事、妻は家庭」についてどう考えますか？
- Q5: 男性の家事、育児、介護については？
- Q6: 女性がもっと増えるとうい職業は？

日本の“お父さん”は、働く時間が長い！

スイスでは共働きは当たり前。当然その他の家事なども分担してやります。お互い家族との時間を大切にしています。スイスの学校では参観やPTA、給食やお弁当もありません。私の夫は、子どもの学校行事にも積極的に参加してくれます。家族の時間や、夫婦2人の時間を大切にしてくれます。

男女の地位は… “平等”であると思います。

女性が仕事をしすぎて子どもの面倒を見なくなるのもよくないので、バランスが大切だと思います。

「子どもができて、仕事は続けるほうがよい」と思います。スイスでは、妊娠7カ月まで仕事をして、出産後3～6ヵ月休んでほとんどが仕事に復帰しています。私は、子どもとの時間を大切にしたいので3年間は外に出る仕事はしなかったのですが、その間も社会とのつながりは持ちたかった。スイスでは、妊娠した時点で子どもを預けるとを申し込みます。仕事に復帰した後も勤務時間にもある程度自由になります。



菅原アンドレアさん

スイス出身。来日してから14年になる。以前は京都に住んでいたが、11年前に蓮田に来て、現在は関戸で、夫と娘2人の4人暮らし。伊奈学園でフランス語の非常勤講師をしている。

“やろう”という気持ち大切！

男性の家事などへの参加は賛成です。日本の小学校では、男児も授業で調理実習を受けているのにはビックリしました。

女性は“家の仕事”を守りながら…

家事、育児なども女性にとっては大切な仕事。それを守りながらできる仕事であればよいと思います。スイスでは、「男性だけ・女性だけの仕事」というものはありません。



高野さあや(楊小斌)さん

中国(福建省)出身。夫と息子2人、夫の両親の6人暮らし。中国の日本語学校にて、日本語を学ぶ。現在、小学校PTA役員で広報部を担当しており、積極的に活動している。

「ナマモノを食べる」ことが一番の驚きでした

海の近くで生まれ育ったのですが、食事は必ず火を通してから食べます。ナマを口に入れるのは中国では“あり得ない！”ので、始めはお寿司が食べられませんでした。サラダもダメ！でも、少しずつ食べられるようになって、今は大丈夫です。

子どもができると仕事をするのが難しいです

子どもができたら仕事を辞め、ある程度子どもが大きくなったら、また仕事をするのがよいと思います。例えば、子どもを保育園に預けると子どもの成長を親が全然分からない。「今日はハイハイができましたよ。」と人から聞いて知るのではなく子どもの成長は自分の目で見たいと思います。中国では、若い人は働いて、リタイヤした年寄りが孫の学校の送り迎えなど面倒を見ていました。

男性は仕事が大変、女性は子育てが大変！

男女の地位は“平等”だと思います。主人は、休みの日には掃除をしてくれます。(弟がいるので小さい頃からやっていたため)私が何も言わなくてもやってくれます。

基本的に子どもは「ママ」なので、家のことは母親がやるほうがよいと思います。男性が家にいるパターンもありますけど…。

自分がやらないと気持ちがわからない！

子育てや家事など、主婦は“楽”そうに家にいると思われがちです。男性にも大変なところを理解して欲しいです。

子どものことを考えなければ、職種に男女は関係ないと思います

夜勤がある仕事は子どもにも負担をかけるので難しいです。私はお弁当屋さんで働いていますが、朝家事をやって、子どもが学校に行っている時間帯に仕事をして、帰ったらまた子どもと関わることができるととてもよいです。少しでも稼ぎがあると、保育料や集金など出してもらえると主人も助かると言います。仕事とPTAで、1週間のほとんどは家から出ています。主人の仕事は勤務時間が不規則なので、年を取ってくると我慢は身体にはよくない。病気になっては困るので、健康第一で冬のスノーボーや筋トレは続けて欲しいです。

電車賃が高い！

留学当初は経済的に余裕がなく負担が大きかった。しかしメリットは、電車が時刻表通り「何時何分」まで正確なので、自分も時間を守れるのがよいです。中国では、男女が同じように働いています。産休も短く、数ヶ月で職場復帰します。

子どもは両方の祖父母が見てくれて、保育園ではなくベビーシッターがほとんどです。中国では結婚しても苗字は変わりません。農村部は特に長男優先で、祖父は自分と同じ苗字の孫の面倒をみる傾向があります。

日本では男性が優遇されていると思います

自分はすぐにでも仕事をしたいのに、主人の仕事の関係上、いつ海外に派遣されるかわからないという理由で、なかなか採用してもらえません。

仕事を通じて自分の価値を知りたい気持ちが高く、せっかく勉強したのに何も出来なくて歯がゆい気持ちです。考え方を変えなければならないので、心のバランスを取るのが大変でした。

子どもができて、ずっと仕事は続けたいです

最近の中国は、以前より留学経験者が増加したため競争が激しく、就職が困難になっています。

特に、既婚女性の場合は、面接で「子

どもが欲しい」発言は禁句！他の人が同じ経歴だと、子持ちでない人のほうが採用される傾向があります。産休を取った場合なども職場復帰が難しいです。

妻が働いていても、家庭を守ることは出来ると思います

「男性は家で何もやらない」というのは、国の政策や環境に関係があり、「やりたくない…」ではなく、下手！小さい頃からずっと、母親が何でもやってくれるので、自分でやったことがない、「育て方」の問題だと思います。

日本は生活保障がきちんと出来ているので、妻が専業主婦でも生活が成り立っていますが、この先、消費税や年金問題、子どもの未来、例えば「留学させたい」など経済的な面を考えると、妻も働く価値は充分あると思います。

外で仕事をするのはストレス。家事をするなどして気分転換するのがいいと思います。

日本の男性は「コミュニティ」が無く友だちが少ないです。男性はなかなか輪に入って行けません。

日本は福祉や人材育成が発達しているので、研修も人が集まってきます。これからの中国は「1人っ子」で老介護を担わなければならないので大変です。中国人は「老人ホーム」に対するイメージが悪く、自分の親なら面倒を見るのが当たり



土居 新(季新) さん

中国(北京)出身。大学卒業後、国際協力機構(JICA)中国事務所で働く。留学のため来日。NGO「日中市民社会ネットワーク」に参加、翻訳コーディネーター担当。

前という考えが主流で、日本より15年くらい遅れている感じがします。

環境や会社の制度が、自分が戻りやすいように整えられたらよいと思います

女性は妊娠すると、職場でのポジションのアップの機会は少なくなります。会社は利益を追求するので、その人以外にも人材はたくさんいる訳ですから、仕方がないと思います。

日本は中国と違い、女性は働くのが大変!! 子どもは2~3人いるし、学校は親が参加する行事が多すぎます。

中国では、親が学校に行くのは年に3、4回程度。子どもの送り迎えは祖母の役目です。私も、もし子どもができたなら…仕事はしたいです。社会に出たい気持ちが強いです。

外国人のための 蓮田日本語教室



日時●毎週日曜日
10:00 am~12:00
場所●蓮田市勤労青少年ホーム
TEL●048-768-8743
日本語ボランティア
グループ

問い合わせ先●
NAKAMURA(中村)
蓮田市国際文化交流会/
蓮田市
TEL 048-769-4174



費用は
無料です

ますます ろうごを にこにこ えがお

まろにえ会

いきがい大学伊奈学園を修了した方々が学んだことを生かし、地域に貢献したいという「シニア世代」の仲間と活動している、「まろにえ会」の中村さんにお話を伺いました。



まろにえ会の構成

いきがい大学伊奈学園の修了者により構成
平成7年、4期生の卒業生4人で設立。
(中村氏：14期生)
現在の会員数：69人
内女性…24人
平均年齢：74・5歳
(64～86歳)

Q どんな活動をしていらっしゃいますか？

A 子どもから大人まで幅広く、ものづくりや墨絵などいろいろな事を教えたり、社会福祉協議会の依頼で高齢者の送迎などのボランティア活動をしています。これからは地域の子どもたちの育成に貢献できる活動も中心となるのでは、と思っています。

Q まろにえ会の会員の中では男女共生を意識したことはありますか？

A 特にないですね。自然と男性は車の運転を引き受けたり、女性に得意なところをお任せしたりはありますが、男女関係なく得意なもので活躍しているので意識してということはないです。

女性の働き方について

「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい。」と思います。最低でも、子どもは3人以上作っていただきたいと思います。

男女共生 インタビュー



夫が外で働き、妻は家庭を守るについて

賛成できません。心情的には、そうなってほしい部分もありますが、現実的には無理だと思います。ただし、何でもかんでも男女平等という思想ではなく、男女がそれぞれの立場で仕事を行える『日本流男女平等』が実現できる社会づくりをしなければならないと思います。

男性が家事・子育て・介護に参加することについて

おおいに賛成です。男性と女性は、共生しなければ生きていけないということを決して忘れてはならないと思います。

取材を終えて…

中村さんはとても紳士的な方でした。時にユーモアを交え、時に深いなあと感じるお答えをいただき、特に印象に残ったのは、「**男性と女性は共生しなければ生きていけないということを決して忘れてはならないと思う**」とおっしゃられた言葉です。あたりまえのことなのでしょうが、あらためて心に置いておかなければいけないなあと感じました。



まろにえ会

ホームページ紹介 

<http://www.olff.net/inavoice/kouiki/maronie/maronie-top.htm>
彩の国いきがい大学伊奈学園 (県民活動総合センター)
<http://www.olff.net/sid-ina/>

『それぞれの生き方』

あなたは、
どうお考えですか？

蓮田市内で
男性131名と女性103
名の方にアンケートにご
協力いただきました。質問
毎に編集委員の感想を
のせています。



～男女共同参画社会に関するアンケート～

1 男女の地位について、どうお考えですか。

	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
男性優遇	10	7	5	11	5	12	7	7	6	5	14	3
平等	18	21	7	10	14	8	12		3	1	14	6
女性優遇	5	3	3	2	1	1	2				1	1
不明	2	2		1	1	1	1			1		

男女の地位について、全体では約半数が平等と感じているようです。しかし、男性が優遇されているという回答も少なくありません。

特筆すべきは20代の回答でした。男女共に平等との回答率が高かったのですが、男性より明らかに女性のほうが平等と感じている結果になっています。とても頼もしく思います。(石井)

2 女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。

	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
結婚までもつ	1	4				1					1	
子どもができるまで	4	1		2		1	1				1	1
ずっと続ける	15	18	9	7	14	7	13	6	5	3	16	2
子どもが大きくなったら再び最初からもたない	15	10	6	14	7	11	8	1	4	2	9	2
不明				1		2				2	2	5

私は子どもができたら女性はなるべく家庭に入るのがベターだと思っています。しかし現状としては、なかなかそれが許されない世の中となり、女性も働かずにはいられない社会情勢となっています。しかし、能力のある女性が結婚・出産により家庭にうずもれてしまうのはすごく残念に思っています。女性の社会復帰が早く出来る様な世の中に早くなることを願っています。(澤田)

3 「夫は外で働き、妻は家庭を守る」これについて、どうお考えですか。

	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
賛成	5	8	2	9	4	5	3		2	1	6	2
反対	18	14	7	5	10	5	9	2	4	2	10	3
その他	12	11	6	10	7	12	10	5	3	4	13	5

アンケートの結果、“反対”意見は各世代に共通し、男性に多いことがわかりました。年代別にみると、“賛成”は30～40代(子育て世代)の女性に多く、50代以降では“その他”の意見が特に女性に多くみられました。“その他”として、「男は仕事、女は家庭」といった性別による役割分担をするのではなく、各家庭ごとのライフスタイルや、経済状況に応じて考えればよい」といった意見が数多く寄せられ、その中でも60代以降では「男女共同参画の面では反対でも、少子化の面では賛成」という意見が目立ちました。男性は就職した場合、迷わずに働く人生を送ることができますが、女性は結婚、出産、育児など仕事を続けるか、やめるかという選択に迫られてしまう不公平感は否めません。また、「共働き家庭」が理想ではなく、そうしないと家計が維持できないというのが現実問題としてあります。法や制度は整備されても、厳守されていないのが現状…「稼ぐ方を優遇する」暗黙の了解が払拭できない職場の意識・体質改善が最優先の課題であると思います。男女の役割がある意味で変えられる社会づくりの必要性を痛感しました。(石塚)

4 男性が家事、子育て、介護に参加することについて、どうお考えですか。

	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
賛成	32	32	15	22	21	21	21	7	7	7	26	8
反対									1		1	
わからない	3	1		2		1	1		1		2	2

結果から、全年代において【男性が家事、育児、子育て、介護】に参加する事が、望ましいと言う事がアンケートから、言えるのではないのでしょうか？もしくは、実際には、様々な事情で参加したくても、参加できていないけど、参加する方が好ましいと言う事も考えられるかもしれません。その時代、時代に合った男女が共に支え合う生き方が、求められているのでは、ないでしょうか？(田中)

5 女性がもっと増える方がよいと思う職業や役職は、何がありますか。

鉄道の運転手・総理大臣・医師(産婦人科)・教師・社長・技術職・首長・議員
エンジニア・消防士・警察官・管理職・パイロット・弁護士・国家公務員
介護職・裁判官・引越屋さん・調理師・建設業・駅員

今回の取材をとおして、仕事、家事や子育てに対して、女性は意欲的でいて、また現在の状況に理解もあるのだなあ。と感じました。性別に関わらず、やりたいことにトライできるような環境づくりのお手伝いできればうれしいです。(菅野)

